

4. 履修について知ろう

1 「履修」とは何か

〔1〕履修の意味

履修とは、「大学で決められた科目を修めること」を意味します。もう少し具体的にいうと、大学は、学科ごとの課程（卒業要件）のなかで学びたい科目を登録し、皆さん自身で時間割を決めます。その科目に合格すると単位を得ることができます。これを「履修」というのです。

大学は、高校までのような決められた科目を受け身的に学習することと違って、きわめて自由、かつ自主的な学び方となるのです。したがって、入学された皆さんは、当然自発的、自主的に学ぶ意思をもっているということが前提となります。

万一、勉学等に対する意欲が不確かな場合には、何事にも消極的になり、自主的に勉学（さまざまな分野への参加）をしない「別な自由」も保障されていることとなります。しかし、この場合の結果については自らが責任をとらなければなりません。

〔2〕履修登録

どのような授業を受けるにしても、好き勝手に教室に入って良いわけではありません。自分自身はその授業を受けることを事前に届け出る必要があります。これが「履修登録」です。履修登録を行う時期は限られていますので、注意が必要です。本学では1年間（前期と後期）の履修を4月にWeb（UNIVERSAL PASSPORT）上で済まさなければなりません。

登録は、各学部各学科の「STUDENT HANDBOOK」（学生便覧）に具体的には記載されています（抜粋は紙媒体、パソコン上には全てのデータが掲示されています）し、ガイダンス等でも注意喚起されますが、卒業までの重要な過程が履修登録ですので、十分注意して確実に登録を行ってください。

以下では、履修（登録）をする際に知っておくべき基本的な事項を述べていきます。

UNIVERSAL PASSPORT

誰もが「いつでも」大学に関する情報をみることのできるシステム。学生生活において、履修登録に始まり、掲示情報の確認、授業担当教員とのやり取りなど、キャンパスライフ全体を通じて活用できる。

2 「履修」の期間と時間割

〔1〕学年・学期

学年は、4月1日から始まり、翌年3月31日で終わります。学年を分けて前期・後期の2学期とします。前期だけあるいは後期だけの履修や1年間を通じての履修などさまざまな形態の科目があります。

2学期

前期は4月1日から9月30日。後期は10月1日から翌年の3月31日までの期間。

〔2〕授業時間・時間割

本学の授業時間は、1時限90分であり次のような設定となっています。

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
時間	8:40	10:25	11:55	12:35	14:20	16:05	17:50
	～	～	～	～	～	～	～
	10:10	11:55	12:35	14:05	15:50	17:35	19:20

時間割は、一定の条件を満たすように各自で選択して組み、選択した科目だけを受講すればよいこととなります。つまり、科目の選択の仕方によっては授業と授業の間に空き時間ができることもあり、また場合によっては、授業のない曜日ができることもあり得ます。したがって同級生であっても、一人ひとりの時間割は異なることとなります。

3 カリキュラム

〔1〕構造

それでは、どのような科目を履修しなければならないのでしょうか。同じ大学に入学しても、学部・学科が異なると4年間で履修する科目が大きく違ってきます。それは、どの科目をどの順番で履修していくと、最も効果的にそれぞれの専門知識や技術を身に付けることが可能であるかということを先生方が話し合っ、て、学科毎に「カリキュラム」が作成され、それにしたがって履修していくからです。

ここでは、全学に共通するカリキュラム（教育課程）の構造のみを事例的に示しておきます。「STUDENT HANDBOOK」（学生便覧）内に「教育課程」として示されていますが、本学の授業科目は、総合基礎教育科目と専門教育科目に大別されます。

総合基礎教育科目は、広い意味での「教養」を涵養する「知」の枠組みであり、総合的・多角的な見方を身につけるとともに、専門の基礎を学ぶことを目的としています。本学では、これを「教養の基礎知」「科学知」「実践知」「健康知」の四分野に分割して、学びの方向性を示し

ています。

また、専門教育科目は、教育方法から「講義科目」「演習科目」「実技・実習・実験科目」に区分され、受講する順番を大まかに示すものとして「基礎科目」「基幹科目」「発展科目」「関連科目」にそれぞれ区分されます。

講義科目は大学で学ぶ大きな部分を占めており、その基礎・基本を学ぶ概論・原論、その上に細部を詳細に学ぶ各論、さらに個別・事例的事象を取り扱う特殊講義・特講に分類されます。その意味では、何が土台になっているのかという理解が必要ですし、土台を無視して各論・個別事例を学んだとしても、全体像を理解することが困難になってしまいます。

このような講義科目の理解を深めるために、「演習科目」がこれを補足し、「実技・実習・実験科目」によって体験的に理解することになります。

【教育課程の体系】

授業名称	知	内容
総合基礎教育科目	教養の基礎知	人文学系科目
	科学知	自然科学系科目
	実践知	社会科学系科目
	健康知	総合系科目
専門教育科目	専門基礎科目	
	専門基幹科目	
	(専門発展科目) 学科によって有無	
	関連科目	

総合基礎教育科目

リエゾンゼミⅠ(基礎演習)は教養の基礎知のⅠ群に位置する。

専門基礎科目

リエゾンゼミⅡ(専門基礎演習)、リエゾンゼミⅢおよびⅣは専門基幹科目L・C群に位置する。

これらの授業科目を受講する際、教育課程の構造を視野に入れ、それぞれの授業がどのように配置されているか、そして科目間の関係はどのように位置づけられているのかなどを意識することも重要です。この点に関しても、「STUDENT HANDBOOK」(学生便覧)中の「授業科目の流れ」を参照してみてください。

なお、各種資格の取得を目指す場合には、指定された学年において決められた科目を履修取得しなければなりません。この点に関しては「各種資格ガイダンス」で確認してください。

各種資格ガイダンス

たとえば、教職課程は「教職課程指導室」、「福祉実習指導室」などの組織がこのようなガイダンスを担当している。

〔2〕必修と選択

履修をする場合に、「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」などの区分け（用語）が登場します。

総合基礎教育科目は、大学全体に共通する科目ですが、その他のほとんどの科目は学部・学科毎に定められた個別のカリキュラムによって運営されています。将来の方向性によって上級生になればなるほど細分化された領域を学ぶこととなりますが、将来どのような方向性に進むにしても誰もが必ず基本として身に付けておいてほしい科目があります。これが「必修科目」です。

たとえば、総合基礎教育科目における「禅のこころ」は学部にかかわらず全学生の「必修科目」ですし、「社会福祉原論（職業指導を含む）」は社会福祉学科の「必修科目」に位置づけられています。このような「必修科目」は当然ながら必ず履修し合格すること（単位を取得すること）が求められています。たとえ、他の科目の成績が良くても、「必修科目」が1科目不合格であれば卒業できなくなってしまいます。このような科目を履修した場合は、履修学年で合格することに努めてください。なお、不合格の場合は、合格するまで履修しなければなりません。

次に「選択必修科目」があります。これは、さまざまな科目群から自分の興味や将来の進路・専門に合わせて、1つまたは複数の科目を選んで履修するものです。

「選択科目」は、将来どのような進路を考えるのか、研究をしたいのかによって、多くの科目から自由に履修したい科目を選択し、規定にある上限を超えないように履修登録していくことのできる科目です。

〔3〕単位

皆さんは、小学校から高校まで「学年制」のなかで学んできました。ところが、大学では「単位制」を採用しています。つまり、選択履修した科目を受講し、「合格」の認定を受けると、その科目の学習時間を基に算出された数の「単位」が授与されます。この単位は、他大学との単位互換などに活用する場合があります。

本学の単位数の算定基準は、おおむね以下のようになっています。つまり「1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

（1）講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学

必修科目

卒業までに学校の定めた教育課程に従って必ず履修し、合格しなければならない科目のこと。

選択必修科目

いくつかの科目のなかから、必ずある科目を選択して履修し単位を取得しなければならない科目のこと

選択科目

自分の意志で自由に選択して履修できる。同時に履修しないのも自由である。

が定める時間の授業をもつて1単位とする。

- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて1単位とすることができる。(以下略)」
(東北福祉大学学則第36条)

本学では、通常、講義科目2単位の場合、15回の授業、4単位の場合は30回(いずれも試験を除く)の授業を行い、演習は30回(例外もあります)の授業を行っています。とはいえ、単位数の多い授業は重要性が高いとか、将来に役立つ可能性が高いとかいうわけではありません。科目の特徴などの諸般の事情によって規定されているに過ぎないのです。

〔4〕卒業単位と資格単位

卒業単位とは、大学をはじめとして、学校を卒業する要件とされる単位の事です。法令では、大学の4年制の課程で124単位以上と定められています(本学では保健看護学科のみ125単位以上、それ以外は124単位以上)。したがって、皆さんは、それ以上の単位を卒業するためには修得しなければなりません。その際、所属している学科のカリキュラム表に記載されている科目を履修する場合は、卒業単位として認定されますが、それ以外の科目を受講する場合は卒業科目としてではなく、資格科目として認定されることになり、124単位以上(保健看護学科は125単位以上)には含まれないこととなります。

たとえば、産業福祉マネジメント学科所属の学生が、社会福祉士の国家試験の受験資格を得るため、「社会福祉援助技術総論」を履修したとします。社会福祉学科では、この科目はカリキュラム表に記載されていますので、卒業単位の一つにカウントされますが、産業福祉マネジメント学科では、カリキュラム表に載っていません。したがって、「社会福祉援助技術総論」は、産業福祉マネジメント学科所属の学生にとっては「資格科目」となり、124単位の卒業単位には含まれない科目(単位)となるのです。卒業単位と資格単位を勘違いする学生が毎年多く見受けられますので、注意が必要です。

〔5〕各学年の登録単位の上限

本学では、卒業所要登録単位の上限を、46 単位以内と定められています。ただし、資格科目履修者は 60 単位までの登録を認めています（福祉ボランティア活動Ⅰ～Ⅳ（各 1 単位）などを含む場合は 47 単位まで登録可）。つまり、46 単位の卒業単位を登録した場合は、14 単位まで資格科目の登録が認められるのです。所属する学科のカリキュラム表をしっかりと確認しましょう。

以上のように、卒業に必要な単位数を修得するためには 1 年 1 年の積み重ねが必要であり、そのための大事なステップが履修登録（履修手続）です。履修登録をしていない科目は受験資格がなく、当然評価も与えられません。ガイダンスをしっかりと受け（理解し）、不安であれば教職員からのアドバイスを受け、誤りのないような履修登録に心がけてください。

次のようなことにならないように気を付けよう！



授業を受けていたのに、登録されていなかった！



講義名は同じでも、担当教員が違っていた！



資格単位を卒単に数えていた！選択科目が足りない！

